



特集 これからの未来をつくる国勢調査

国勢調査は、大正9年（1920年）に始まり、5年に1度実施され、今回の調査で100年目の節目を迎えます。日本に住む人や世帯について知ることで、生活環境の改善や防災計画など、わたしたちの生活に欠かせないさまざまな施策に役立てられる大切な調査です。

今回の特集では、国勢調査の歴史や過去のデータとの比較、国勢調査の流れなどについてご紹介します。



01. 阪松原地区。02. まちの誇りである高齢者。03. 井田地区。04. まちの宝である子ども。



国勢調査の目的

国勢調査は、統計法（平成19年法律第53号）第5条第2項の規定に基づいて実施する人及び世帯に関する全数調査で、国および地方公共団体における各種行政施策その他の基礎資料を得ることを目的としています。

国勢調査は、世界的には「人口センサス」と呼ばれており、諸外国でも各種の行政を行うための基礎資料や、国際的な視点から諸外国の結果と比較するためにも利用されるため、調査を実施しています。2005年から2014年の間に日本を始め、世界214か国で人口センサスが実施されました。

国勢調査はさまざまなことに役立っています

国勢調査から得られるデータは、国や地方公共団体における行政の運営をはじめ、民間企業でも経営判断などに利用され、国民の共有財産として、みなさんの身近な暮らしに使用されています。

大学・シンクタンク等の学術研究
人口学・社会学・経済学等での利用、災害被害等のシミュレーションなど

企業等の経営分析・予測
製品・サービスの需要予測、店舗・工場の立地計画、エリアマーケティングなど

統計調査の母集団情報
労働力調査、全国家計構造調査など、政府が行う統計調査の抽出フレームとして利用

推計用の基準人口
国民経済計算、将来推計人口など、各種の統計作成を行うための基準人口として利用

このように、国勢調査は、幅広く利用されており、もし国勢調査がなければ、私たちの暮らしに支障をきたすこととなります。

この調査は、生まれたばかりの赤ちゃんや外国人を含む、10月1日を基準日として日本に住むすべての人が対象となります。みなさんの手で町をより暮らしやすくするための第一歩となりますので、ご協力をお願いします。



原敬 / 【出典】国会国立図書館「近代日本人の肖像」

初の国勢調査を実施

フランスから国勢調査の重要性を学んでいた原敬は大正9年、内閣に国勢院を設置し、初の全国的な国勢調査を実施しました。その背景には、明治35年「国勢調査ニ関スル法律」が定められるも、戦争の影響で実施されず、時は流れ大正6年、内閣統計局長・牛塚虎太郎らの尽力により大正9年の実施となりました。



大隈重信 / 【出典】国会国立図書館「近代日本人の肖像」

初の統計機構を設置

早稲田大学の創立者として知られる大隈重信は、統計に関心をもち、明治14年、杉らが明治政府に要望し続けていた統計機構の拡大強化として統計院を設立し、初代統計院長に就任しました。その後、総理大臣になると、統計課を内閣統計局に復活させ、統計の体制整備を行いました。



杉亨二 / 【出典】国会国立図書館「近代日本人の肖像」

日本統計のはじまり

日本近代統計の祖と称される杉亨二は、蘭学者として蘭書翻訳する中で、統計を知り、その重要性を学びました。そして、明治12年、国勢調査の試験調査ともいえる「甲斐国現在人別調」を実施しました。その後は政府で統計行政に携わる一方、統計専門家や統計学者の養成にも力を注ぎました。

そんな歴史があるの!? 国勢調査